

和学鍛



朝明中学校通信
令和6年9月18日号

学び舎音楽会 ～オーケストラの演奏で校歌を歌ったよ～



13日(金)に、本校体育館で「学び舎音楽会」が開催されました。このイベントは、本物の文化芸術に触れる機会を子どもたちに届けようと、四日市市文化まちづくり財団さんが主催してくださったものです。



当日は、東海地方を中心に活躍する「愛知室内オーケストラ」から13名の方が来校。一緒に来校されたたくさんのスタッフの皆さんとともに、朝からセッティングやリハーサルが行われました。

そして、いよいよ本番です。一度は耳にしたことのあるクラシックの名曲の数々や、日本の四季の曲メドレーなど、素敵な演奏を楽しみました。途中の楽器紹介では、クイズを交えながら、それぞれの楽器の音色を堪能する一幕もありました。



後半では、オーケストラの演奏にのり、合唱曲「Believe」を全校生徒で合唱しました。さらに、朝明中学校の校歌をオーケストラの演奏で合唱させてもらえるサプライズも。「うちの校歌も練習してきたの！」と喜びつつ、いつもとはちょっと違う雄大なメロディーによって、校歌を味わった朝明っ子たちでした。



コロナ禍以降、オンラインの活用がすすんで便利な世の中になりましたが、やはり本物に触れる体験は貴重です。生の演奏やプロの方の語り、新しい技術の紹介など、豊かで広い世界を味わえるような機会を今後も創っていきたいと思います。2学期の朝明っ子自律のテーマは、「『創る』を楽しむ、『楽しい』を創る」。素敵な音楽を創り出す演奏家の皆さんの楽しそうな表情からも、何かを学べたかな。

素晴らしい演奏をご披露いただいた愛知室内オーケストラの皆さん、素敵な機会をご提供いただいた四日市市文化まちづくり財団の皆さんに、心から感謝申し上げます。暑いなか、ありがとうございました！



※当日はCTYの取材がありました。

放映されたニュースはCTYホームページのストリーミング放送で見ることができます。

地域行事に「参画」しよう！ ～2学期編～



この秋も、地域の行事が目白押しです。そして、今年の朝明っ子は、参加だけでなく「参画」するのだ！
…ということで、予定が合えば、ぜひ地域行事の運営スタッフに応募してみましょう。小学生の頃は、みんな参加して楽しんでいただけのまちのイベントも、裏で支える側に立つと、また違った景色が見えてきます。地域の大人の皆さんが、まちづくりのためにどんな工夫をされているのかを学ぶ絶好のチャンスです！

希望する人は、所定の応募用紙に必要な事項を記入して先生へ提出するか、中央昇降口の応募箱に入れてください。わからないことがあれば、気軽に相談してくださいね。なお、行事によっては定員があります。

大矢知まつり
10月20日(日)
あさけプラザ
文化祭運営補助

八郷ふれあいまつり
10月20日(日)
八郷小学校運動場
運動会運営補助

大矢知地区防災訓練
11月17日(日)
あさけプラザ
炊出し・起震車体験補助

八郷フェスタ in 伊坂ダム
11月10日(日)
伊坂ダム運動広場
ゲーム・イベント補助

大矢知スタンプラリー
11月3日(日)
大矢知地区内・
久留倍官衙遺跡公園
ゲーム・イベント補助



保護者の皆様へ 「対話による合意形成」ができる子に

行事の取り組みが始まると、必ずといっていいほど学級のなかではもめごとが発生しました。意見が食い違っ
て対立したり、それがもとでケンカになったり。行事前の「中学校あるある」です。大人の皆さんも、中学生だった
ころは「え、そこ？」というポイントでもめたり悩んだりした経験がありませんか。中学生はまだまだ純粹、直球、そ
して元気。だからぶつかることも多いのです(ぶつかって当たり前なのです)。そんな中で、私たちは社会性や問
題解決能力を身につけてきました。

ところが、最近その様子が変化しています。面倒なもめごとを避け、人と深く関わることに控えめな生徒。もめ
ごとやトラブルが起きると、即介入し解決しなければと焦る大人(先生・保護者)。大人が事情を聞き取り、整理
し、これで間違いないかと確認し、謝罪を促す。子どもは「はい、そうです」と「ごめんなさい」を繰り返せば、解決
してもらえる。コロナ禍以降の不安定な世の中では、大人も子どもも「できれば面倒に巻き込まれたくない」と、
見えない不安に翻弄されているかのようです。

しかし、子どもたちが、相手の思いや行動の要因を想像することなく、問題解決を人任せにしてしまうことには
危機感を抱きます。もめごとが起きたら、本来は、当事者同士で解決するもの。そのためには、しっかりと対話して
着地点を見つけ出し、合意形成をする力が必要です。本校の先生たちにも「子どもの言葉を代弁しすぎないで」
とお願いしています。もちろん、解決へと導くための手助けは欠かせませんが、あくまでも子どもが当事者として
問題に向き合うことが大切です。私たち大人がちよっと意識を変えることで、「対話による合意形成」ができる、
自律した子どもを共に育てていきたいですね。